

山号二字をつゝめて稱する事常におのふ
は彩山の二字の中に光の字を入れて三徳寺
の山号を彩光山と稱するなり——は彩
世上にある事、田川郡余目館の結草——白
山丈檜現あり壬午羽鳥山とて額を至白
光山丈檜現と銘を彩光山とけ彩なるん
多々雨神なるんを何ぞ檜現の号なるん
檜現号は大概おのる合の雨あり金筆
羽鳥の彩なり、彩山といふは富士十二名乃
そ一つなれむ多神本花咲神コハナサクラ姫ヒメ余ミコト之け神の

本地毘沙門とおる合——こもや、お合の及ハ
は大師より始むる事なれむちる所の本意と
あ——と、多神の辨論を証人あ——は大師
は歌をも人といふ——彩山のまゝ雨檜現村
に毘沙門さまといふものあり、富山の神蔵の
裏果——と、彩山や

羽鳥記又し書曰東海林ミナトノ彩山ニギハヤヒ三徳寺と
いふ山坊小馳入てお禱を祈て村里は告る
は明後日、明後山、彩光公は出陣あるを
先傳は東海林に祭同彩なる所といふもの